



2019



CHARTERED SEPT. 11, 1953

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2018 - 19 会長主題

地元とつながろう

あずさ部長	廣瀬 健 (甲府 21)	「未来はそれに備える人のものである」
東日本区理事	宮内友弥 (東京武蔵野多摩)	「為せば、成る」
アジア太平洋地域会長	田中博之 (東京多摩みなみ)	“ Action ”
国際会長	Moon Sang Bong (韓国)	“ Yes, we can change ” 「私たちは変えられる」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 尾内昌吉 / 書記 尾内昌吉 / 会計 中村孝誠
直前会長 上妻英夫 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 星住秀一

2019年 1月 新春例会

<IBC/DBC の月>

と き 1月15(火) 14:30-16:30
と ころ 早稲田奉仕園 102号室

受付 飯野さん・尾内規子さん
司会 中村さん
開会点鐘 会長
モットー・ワイズソング 一同
聖句朗読・祈祷 飯島さん
ゲスト・ビジター紹介 会長
ハッピーバースデー

<新春懇談>

「近況と抱負とワイズへの想い」
～自由な語らいの中にヒントがある～

ニコニコ 一同
報告・連絡事項 各担当
閉会点鐘 会長

当番 (第2班) 中村、尾内 (規)、飯野

ワイズメンズクラブ モットー

『 強い義務感をもとう
義務はすべての権利に伴う 』

“ To acknowledge the duty
that accompanies every right ”

今月の聖句

目をまっすぐ前に注げ。
あなたに対してのものに
まなざしを正しく向けよ。
どう足を進めるかをよく計るなら
あなたの道は常に確かなものとなるろう。

箴言 4章 25-26

1月 HAPPY BIRTHDAY

星住秀一さん 24日 金本伸二郎さん 27日

会費の納入は、会計(中村君)への納入または
下記銀行口座への振込みをお願いします。
三菱 UFJ 銀行 高田馬場駅前支店
普通 3548431 「東京山手ワイズメンズクラブ」

12月報告

会員在籍数		13名
例会出席者	メ ン	6名
	メ ネット	1名
会員出席率		46 %
ゲスト・ビジター		3名
		合計 9名
ニコニコ	4,661円 (累計 19,176円)	
B F	国内切手 ーg	外国切手 ーg



2018年12月例会報告

とき：12月12日（火）13：00～15：00
 ところ：サイゼリヤ 西早稲田店
 出席者：浅羽、飯島、尾内、尾内（規）、功能、中村、6名
 ゲスト・ビジター
 菰淵光彦さん（会員増強授業主査・東京サンライズ）
 福島 正さん（元東京目黒）
 福島宣子さん 3名
 合計 9名

早稲田奉仕園の近くにあるサイゼリアを会場に年末懇親会を開催した。出席者は少なかったけれど、テーブルを囲んで軽食を食しながら、みんなでくつろいで語り合った。

浅羽会長からは一つの提案が出された。会長は山手クラブ45周年記念誌「山手ワイズの45年1953-1958」の中から写真ページや奈良信さんの巻頭言、歴代クラブ役員表のコピーを参考資料として配布し、語った。

今年度は山手クラブの65周年に当たるが、山手センターの改修工事が行われていることもあって、記念行事の計画はない。しかし、山手クラブのチャーターメンバーであった大先輩の奈良信さんが11月に亡くなられたこともあり、奈良さんのワイズへの功績を偲んで、山手クラブとして、あるいは東日本区として、奈良さんを記念した基金を作ってみたらどうだろうか。

これについては、その基金は何のために使うのかをはっきりする必要がある、とか、東日本区基金との関係、募金の呼びかけの範囲なども検討を要する、とか、山手クラブの積立金の名称を奈良信基金としたら…それではすぐ無くなってしまおう、とか、いろいろの意見が出された。

飯島さんは奈良さんの山中湖の別荘に何度も行

ったそうで、その別荘は旧山手ブランチの建物を解体したときの廃材を運んで建てたものだという思い出を語った。

あずさ部の会員増強のために各クラブ訪問で忙しい菰淵さん、大先輩の福島正さんとコメントの宣子さんも山手クラブの応援に出席いただき、会を盛り上げてくださいました。ありがとうございました。

.....

1月 ヨルダン会

日時:1月23日(水) 14:30～
 会場:華屋与兵衛
 議題:・今後の予定、次期会長の件、その他

おたより

<浅羽俊一郎さん> 去年はチェンマイとネプドーのYMCAを訪問し、それぞれYMCAならではの「安心」と「支え合い」を体験しました。

秋には息子が結婚、気楽に連絡できなくなりました。

ワイズの奈良さんが召された一方で、小学2年の同級生と60年ぶりにフェイスブックでつながりました。

今年もワイズの交わりを大切にしていきたいです。

<上妻英夫さん> 「霜月夜ハチハチテーブル賑やかに」家族全員（孫2人）で88のお祝い会してもらい、料理もよし、皆で楽しみました。

<金本伸二郎さん> 12月7日に行われた家内の葬儀には、山手クラブの皆様にご参列いただき、ありがとうございました。走るべき行程を走り終えたわけですが、少々、早すぎるのではないかと、思えてなりません。

<増野 肇さん> 猛暑の年でしたが、少し落ち着きました。良い年をお迎え下さい。



ネピドーYMCAを訪ねて

浅羽俊一郎

2018年12月17日から21日まで、東京YMCA職員の松本数実氏（国際統括）と柳原みずき氏（にほんご学院）、そして現地参加したアジア保健研修所（AHI）の清水香子さんの4名でミャンマーのネピドーYMCAの活動を視察してきた。

東京の寒さと喧騒からいきなり真夏の陽気と車も人もまばらな新首都への移動はちょっとしたカルチャー・スリップ。YMCAそのものはごみごみした旧市街（ピマーナ区）の住宅街にあった。モンモンウィン総主事は「国の民主化が進む中、ネピドーはYMCAが発祥した頃のロンドンと同じ。地方からここに引き寄せられてくる若者をケアしていくことがこのYMCAの課題」と言っていた。

そもそも何故ネピドーYMCAを訪ねたか。一昨年、日本YMCA同盟にミャンマーYMCA同盟から協力要請があった。貧困地域での阿片生産の代りとして「八角」栽培を進めたい。八角は調味料、医薬品の原料で、地域の気候が栽培に適している。その上現地僻村を巡回して医療活動を長年続けている林健太郎医師（Barefoot Doctors チャンプルー）が協力してくれている。苗木育成の支援キャンペーンやユース・ワークキャンプなどの活動が考えられる、と。そこで日本YMCA同盟から東京YMCAに同じ首都ということでネピドーYMCAと協働しないかと打診があり、昨夏のチェンマイ世界大会の際、ミャンマー同盟のモンモンウィン総主事と菅谷総主事とが初会合。東京YMCAが視察チームを派遣することになり、国際委員長の私も参加させてもらった次第である。

さて、ミャンマーは人口8割が仏教とはいえ、キリスト教も6パーセント（バプテスト派が主流）。クリスマスの多忙な時期ではあったが、

同盟のモンモンウィン総主事、ネピドーYMCAのジャクソン総主事、林医師がフルタイムで対応してくれた。理事たちとの会合、YMCAの保育園・診療所視察、僻村や強制退去民居留地の訪問、そしてネピドーの若者との意見交換、と充実した日程。その上、中央政府と教会連合がそれぞれ主催した2つのクリスマス・パーティに招待された。何よりもYMCAの施設はかなり傷んでいたが、それに余りある職員・ボランティア・若者の献身的な働きにYMCAの原点とは何か考えさせられた。



因みにラングーンから始まったミャンマーのYMCA運動が今年創立125周年を迎える。この記念すべき年に東京・ネピドーYMCA間で新しい繋がりが出来ることを大いに期待したい。

なお、この度の訪ネの副産物はAHI（本部は愛知県日進市）の清水香子所員との出逢い。AHIは元YMCA職員数名によって設立されたユニークな団体。清水氏は卒業生のジャクソン総主事のその後の活動フォローのために訪問。AHIの地道な活動について学ぶことが出来た。

余談だが、今ミャンマーは乾期。それなのに19日は小雨。さらに翌日遠出中には集中豪雨に見舞われる始末。「考えられない」を連発する林医師に、私が雨男であると白状してようやく一件落着。





2019年 在京ワイズ合同新年会

飯島隆輔

多摩みなみクラブのホストで1月5日(土)12時30分から、京王プラザホテル八王子で行われました。在京の17クラブの他に十勝、埼玉、所沢、川越、甲府21、厚木、横浜つづき。熱海の計25クラブから141名のメンバー、メネットが参加し盛会でした。

第1部 礼拝では、「夢を描こう一緒に生きるために」と題して恵泉女学園大学の宇野緑牧師が説教され、席上献金は東日本大震災復興支援に献げられました。**第2部** 歓迎挨拶、祝辞に続くアトラクションでは福祉の仕事からプロの紙芝居使になったという“紙芝居せんべい”(芸名)による紙芝居を楽しみ、久しぶりに(70年ぶりか)「黄金バット」などのさわりを見て、童心に返りました。食事もおいしく、久しぶりに会った仲間も多く、ワイズの交わりを楽しみました。

山手クラブからは、浅羽会長、尾内、飯野、飯島、飯島(愛)の5名が参加しました。

.....

編集後記

○平成最後のお正月ということで、元旦の新聞は平成を振り返る紙面が多くありました。

1989年(昭和64年)1月7日 昭和天皇逝去、
1月8日 平成と改元、
4月 消費税3%スタート、11月にはベルリンの壁崩壊が全世界を驚かせました。

○日本のワイズでは、89年2月18日に東京サンライズクラブが設立総会を山手ランチで開催、70人余りが参集、そして5月28日、快晴の朝を迎えた東京YMCA山中湖センターで認証状が



1、スキーキャンプ

山手センターでは年末年始に5つのスキーキャンプが実施され、約200名の子もたちと約60名のユースボランティアリーダーが参加をしました。年末は雪不足が心配されましたが、キャンプ中日の27日夜から大雪となり、スキー場はあっという間に銀世界になり、たくさんスキーや雪遊びをすることができました。

2、耐震補修工事

年末は山手センターを停電させ、老朽化した電気等の設備キュービクルの交換作業が行われました。2月より玄関入って左の101大教室の工事が始まります。仮事務所も元の場所に戻します。2月末には概ね工事が完了する予定です。3月は引越など新年度準備になります。ゴールが見えてきました。引き続きご支援をよろしく願いいたします。

(星住秀一)

.....

今村理事から神保初代会長の手伝いに伝達されました。奈良信さんが「ワイズの心」と題して記念講演を行いました。さくらの若木の記念植樹が行われました。82人が参集した若さにあふれたチャーターキャンプでした。

山手クラブの若手メンバーを中心として設立されたサンライズクラブも今年は30周年を祝う年を迎えて、東日本区大会をホストします。平成時代は終わりますが、サンライズの時代はまさにこれからです。
(F・K)